



architect cafe

# 田井 幹夫

## 差異の地平

—Shinagawa Arts Park Station—

1968年 東京都生まれ  
1990年～91年 石原設計事務所  
1992年 横浜国立大学工学部建設学科建築学コース卒業  
第15回学生設計優秀作品展  
1992年～93年 ベルーハ・インスティチュート・アムステルダム  
1994年～99年 内藤廣建築設計事務所  
1999年～ アーキテクト・カフェ 設立

## 「まじめに考えるということ」

インタビュー：日本大学 萩島玲子／浅岡翔太

—— 卒業設計のコンセプトきっかけはなんですか？

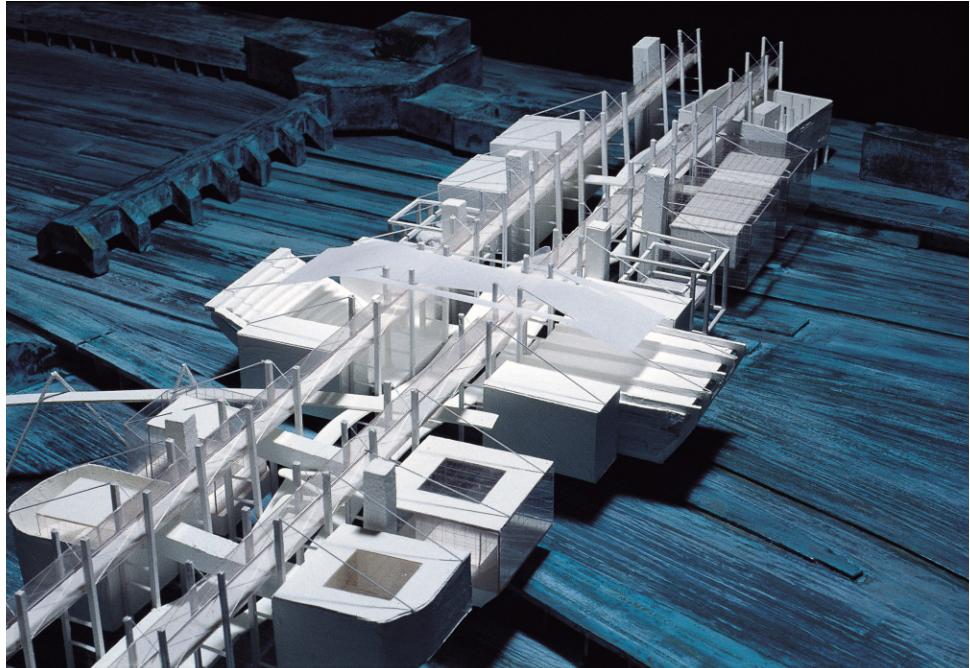
バブルの終わりの頃、建築家がもてはやされていて、建築ブームでした。企業主催の講演会に海外の大御所建築家達、チュミだったりアイゼンマン、スティーブン・ホール、レムなんかが頻繁に来ていました。デザインし放題で面白ければ良いみたいな雰囲気の中で何が何だか分からぬ状態。建物に価値が無くなつて、消費されることに意味があるという消費社会の縮図を見ているようでした。学生なりにこれで良いのかと疑問に思つて、まじめにきっちり建築をつくりたいというのがまず一つありました。あとパソコンが普及し始めて、情報に人々が流され始めている感じがしました。その状況に僕は怯えているというか、怖いなという思いがありました。

そこで、古くから人々が築き上げたものの価値、歴史や建築などきっちり残るものと目に見えない情報との狭間に僕らは生きているという事を表現したかった。そして、空間によって差異を認識したうえで、その先にある自分を確認したいという思いが根本にありました。

—— 当時影響を受けた建築家は誰ですか？

特別影響を受けた建築家は思い当たらぬです。でもその頃は安藤さんが住宅作り中心から商業的な建物を作り始めていて、世の中にもかなり注目されていた。否が応でも目には入つたし、実際関西の安藤さんの作品を一人で訪ね回つたりもしましたね。都市の中へのヴォイドの作り方や、ミニマムな材料の中での光の扱い方などには感動もした。でもあえて一人の建築家に傾倒するような事は意識的にしなかつたと思います。谷口さんの土門拳にも感動したし、海外の情報にも一喜一憂しました。ルイス・カーンのプランの作り方には相当影響されたかもしれない。いろんな建築家を通して建築の果たす役割が自然と体に入つてきました。それに世の中全体から影響を受けていたと思います。

とにかく建築が好きだったんだと思ひます。なんでもかんでも建築と名がつけば食



卒業設計写真

いついて見に行つたり聞きにいったりしていましたから。

—— 当時建築以外で影響を受けた事はなんですか？

演劇は今も好きです。実は瞬間的にパッションを伝えるのは音楽だったり、演劇のほうが強いと思っています。けど、建築は一緒に歳をとつたり、熟成することができる。それが好きで自分は永続性を持つ建築を選びました。

—— 卒業制作と今は関係していますか？

根本的には関係していると思います。今も自分の存在意義やポジションを常に認識することが大切だと思っていて、そのためにはどうするかどんな空間にするか、空間同士の関係性をつくるということを意識しています。

建築は考えて、考えて、掘り下げたその底にじみ出てくるものだから、自分自身の深層部分が否が応でも出てきてしまう。その時に建築の身にまとう表現が周辺の状況だったり、環境によって色んな形をしていくということです。

—— 卒業制作の満足度はいかがですか？

良かったと思います。建築を始めるスタート地点としての、きちんとしたものづくりが経験できたと思います。

学校に寝泊りして、いつ寝てるのかわからない状況の中で、卒業設計に没頭した2、

3ヶ月は他にはない良い経験だったと思います。

今回改めて当時のエスキース帳を見ると、いろいろまじめに取り組んでいますし、今の自分が客観的に見てもはっとするような事が書いてありますね。

—— 建築を目指す学生に一言お願いします

学生時代、ある先輩に「何でも良いからまじめに考える癖をつける」ということを教わりました。なんとなく表面的に考えたり、つくることは簡単だけど、考える癖がないとものづくりはできない。人は正直だから、何かものを出されると、これはイージーにやつてやるなってわかってしまう。建築以外でも常に問題意識を持って、それに対して入り込んでよく考えて、自分なりの回答を出すということは大切だと思う。先生たちがいっぱい本や雑誌を読みなさいとか旅行しなさいとか言うけど、それは全部手段。美術館に行ったとき、アートへの解釈も独自のものでなくてはいけない、だからこそ自分自身で常日頃から深く突っ込んで考える事が大事です。

建築の学生の場合、その究極の試練が卒業制作です。自分でテーマを与えて、自分で解いて、それが自分そのものであり、自分の世の中に対する見方になりますからね。